

環境負荷低減を反映させるサプライヤースコープ3 実測値測定

2024年3月13日

株式会社セブン-イレブン・ジャパン
サステナビリティ推進室
副総括マネジャー 今井 盛仁

本事業関係者限り

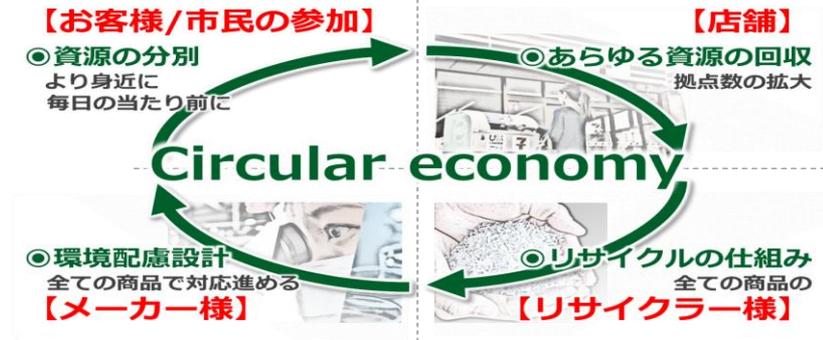
■セブンアンドアイ・ホールディングス

■環境宣言 グリーンチャレンジ 2050

名称	株式会社セブン-イレブン・ジャパン 
事業内容	直営方式及びフランチャイズ方式による コンビニエンスストア事業
代表取締役 社長	永松 文彦
設立	昭和48年11月20日
資本金	172億円
従業員数	8,549人（令和5年2月末現在）
令和5年 2月期実績	チェーン全店売上(国内) 5兆1,487億42百万円 店舗数(国内) 21,5352店（令和6年2月末時点）



店舗を拠点に循環型社会の構築を目指す



1. 応募動機

スコープ3のカテゴリー1の実測値を算定することで、今後の環境負荷低減の取組みを促進させたい

2. 取組みの概要

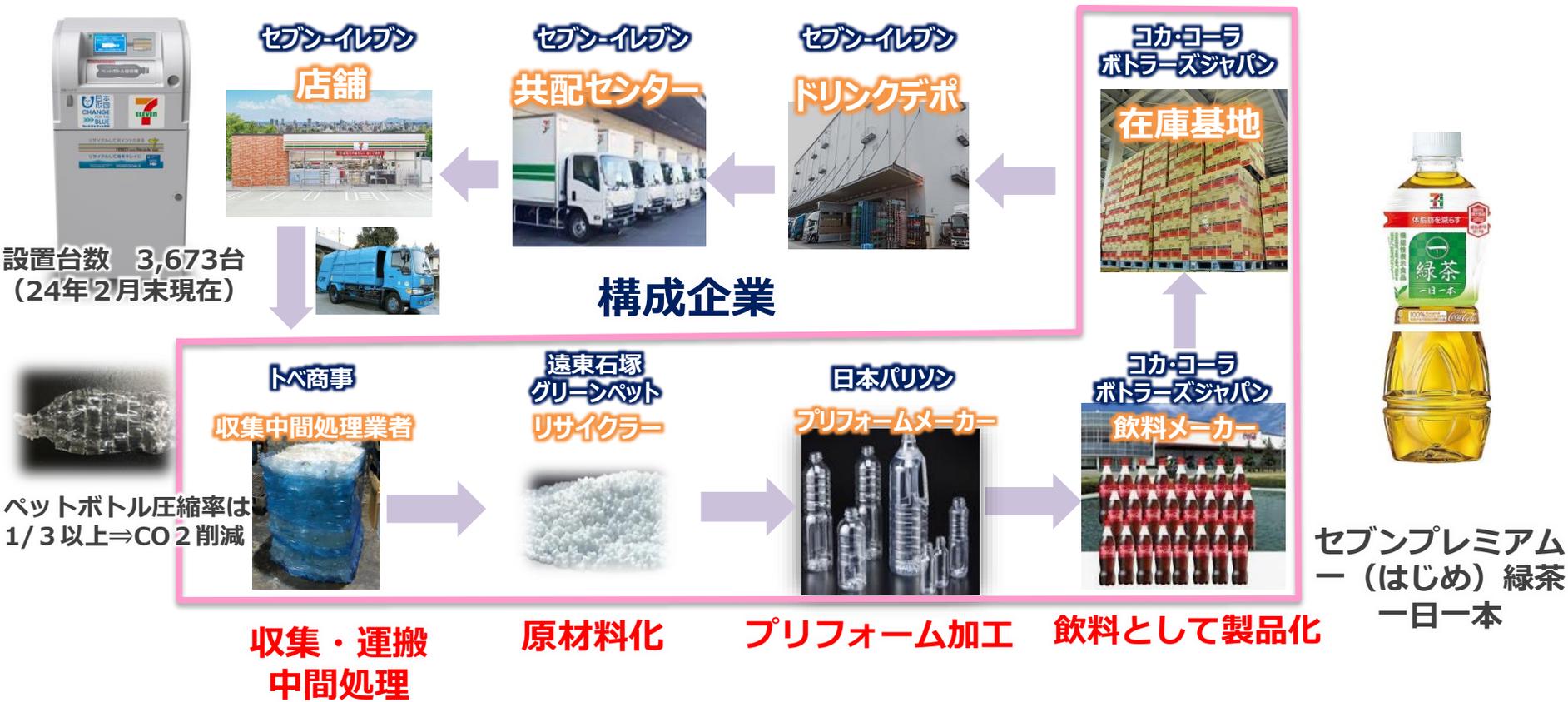
- ・店頭回収し、再生リサイクルペット100%の飲料製造スキームの構成企業様と実測値算定の意義を共有
- ・構成企業様との秘密保持契約とデータ提供
- ・データの確認と修正
- ・実測値算定
- ・今後の方向性の検討

3. 結果

実測値は係数値を下回る

実測値算定により、今後の環境負担軽減の取組みの加速につながる

当社を含めた5社のスキーム図



得たい成果

原単位算出ではなく、環境配慮商品（はじめ緑茶）において実測値を算出し、スコープ3（カテゴリー1）のCO2排出量に置換する

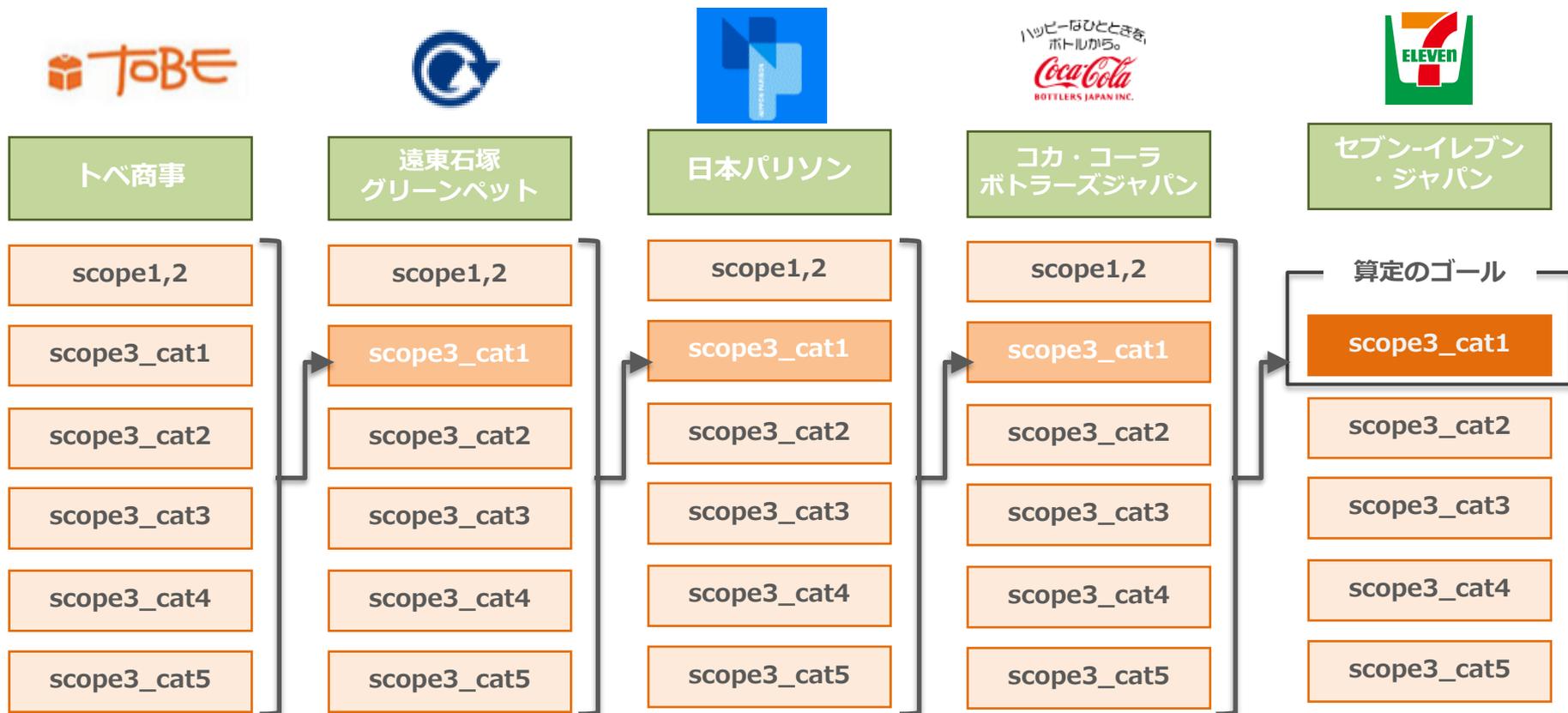
明日の笑顔を 共に創る

構成企業 算定までの課題

	検出された課題	解決へのアプローチ
意識醸成	CO2排出量の算定意義・方法について	啓発資料・動画を用いて算定方法を共有 さらなる意識醸成
体制構築	各データの共有化が必要だが、 機密データの為共有が困難	NDA（機密保持契約）の締結により 情報を共有化する
Scope1,2,3の 把握方法	SEJ側で必要な情報（SEJ向け出荷製品に 関わるscope1,2,3排出量）について、 適切に共有化される必要がある	必要データについて事前にお伝えし、 各社の算定フォームより抽出 ※今後は専用フォームの作成等も検討
Scope3算定 反映方法検討	SEJのScope3への反映手法を確立する 必要がある	各構成企業からのデータの積み上げを 現状算定されている該当分と置き換える
削減効果試算	構成企業の削減取り組みの反映方法に ついて整理し、Scope3削減効果を試算する	算定時にオフセット証書等の削減効果の ある条件で算定し、SEJへ共有

明日の笑顔を 共に創る

Scope3算定・反映のイメージ



はじめ緑茶に関わる活動 (scope1,2 & scope3 cat1~5, cat2除く) を構成企業が算定
それらを積み上げることで、セブン-イレブン・ジャパンのcat1 (原材料・製品仕入) に反映

◆算定結果 ※現行を100とした場合

これまでの算定結果
※「活動量(金額等)」×「排出係数」で算定



本事業による構成企業の
scope1,2,3 (cat1~5) を実測算定

100

99.7

◆本事業において想定以上に課題となった事象



データ共有

構成企業様とデータ共有を目的とした、NDA（秘密保持契約）を締結するにあたり、双方の社内で手続きに時間が必要



算出方法確認

算定された排出量、削減量の成否についてデータ根拠の確認に時間を要する。工数、リソースが必要



データの整合性

一部データについては個別データを未算定・保持されていない為、全体から個別按分にて推計したため、整合性に懸念が残る

実測値算定は若干減少、算定により削減効果の明示化が可能に

当社における展開の可能性（検討中）

◆ペットボトル対象商品の拡大



再生100%ペットボトル
(オリジナル商品のみ)



全ペットボトル飲料



◆簡易算定フォーム

入力	構成企業A	構成企業B	構成企業C	構成企業D
scope1.2.3			排出係数	
scope1 cat1				
原材料納入量 (重量)				
scope1 cat3				
活動量 (製造量、出荷量等)				
scope1 cat4				
原単位 (重量、製造量等)				



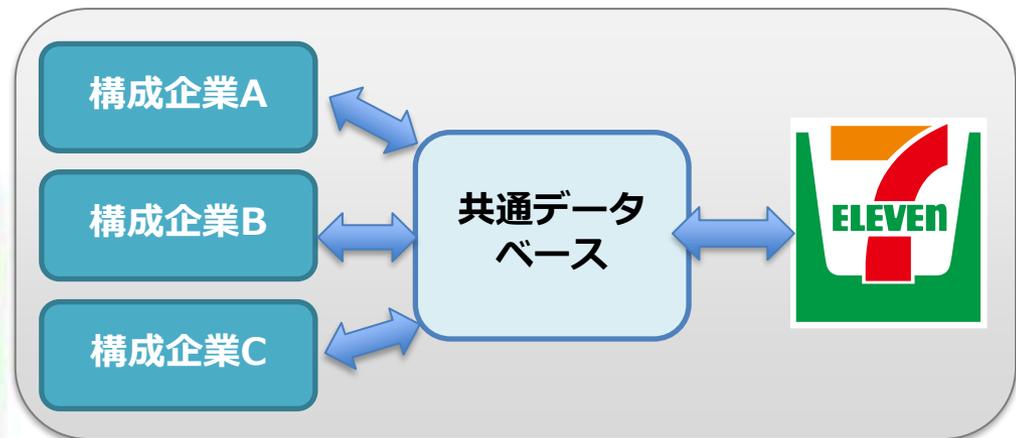
構成企業A	構成企業B	構成企業C	構成企業D

※算定フォーマットのイメージ

入力値から積み上げを自動計算

◆算出スキーム構築とシステム化

※相互確認共通データベースシステムのイメージ



明日の笑顔を 共に創る